



第15回MKチャリティカップ 9月14~17日/MKボウル上賀茂

新人・原口優馬レギュラータイトル一番乗り
近藤菜帆選手大会史上初のアマチャンピオン



▲初タイトルの喜びをかみしめる原口

男子・初優勝をかけた争い

ラウンドロビンのポジションマッチで高田浩規を237:224で下した原口がトップシードを決め、安里秀策が2位、高田が3位と、TV決勝にはいずれも勝てば初タイトルの3名が進んだ。

3位決定戦は、1フレいきなりビッグファイブでオープンのスタートとなった安里だが、2フレからターキー、5フレのスペアをはさんで6フレからオールウェーで258:219と快勝した。敗れた高田は「練習ボールの最後の投球が抜けてしまって、そのイメージを引きずったままゲームに入ってしまった」と悔やんだ。



▲10月にプロ10年目を迎える原口は、2カ月前には第1子も授かった節目の年に優勝をとり高田

今年デビューの原口と、2年目の安里の対決となった優勝決定戦は、一進一退のまま安里がピン差リードで10フレ勝負へ。しかも9フレをストライクの安里は、10フレをストライクならほぼ優勝が決まる。しかしその10フレは対応に苦労している右レーン。「前の8フレに抜けてしまったので、右に寄るか、回転軸を変えるか、スピードを抑えるか、選択肢が3つぐらいあったなかで、スピードを抑える方法を取った。自分の100パーセントを出し切った投球だったけど…」結果は②④⑧⑩を残すスプリット。



▲10フレ、勝負の1投がスプリットとなってガックリの安里。「終わった瞬間は、悔しさで真っ白な感じになったけど、試合が続くので気持ちを切り替えて…」

新型コロナウイルスの影響で、2019年以来3年ぶりの開催となったMKチャリティカップだが、男子は今年デビューの原口優馬(60期・株チョープロ)が、レギュラーツアー2戦目でタイトルを獲得すれば、女子はユースナショナルチームに在籍する19歳の近藤菜帆選手(名古屋グランドボウル)が、大会史上初のアマの優勝者に輝くなど、フレッシュなチャンピオンが誕生した。(主催:MKグループ)



▲ジュニア時代から指導を受けている藤井信人から手荒い祝福を受ける



▲このあとの東海オープンでも準優勝など、プロにとって脅威の存在となっている近藤選手

女子・アマの近藤選手が快走

予選からトップを快走する近藤選手が、そのままTV決勝トップシードを獲得、ラウンドロビン最終のポジションマッチで霜出佳奈が2位に食い込み、大根谷愛が3位での進出となった。

霜出は、コロナウイルス感染で大岡産業レディースをブラインド、これが復帰戦だった。「予選からローゲームをしないようにコツコツ積み上げてきたけど、最後の最後にいちばんのローゲームをやってしまった」と、3位決定戦は2つのスプリットなどで175に終わった。208にまとめた大根谷も、



でも不安を抱えての出場だったので、3位でも自分のなかではよかったかなと霜出



▲「産後復帰してからはなかなか感覚は戻らない。今できる新しいボウリングを目指すべきかな」と大根谷

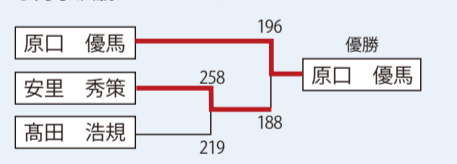
「ラッキーに助けられた部分があった」と、不安を残しての勝ち上がりだった。

ポジションマッチでは、決勝と同じ43、44番レーンで139のロススコアで近藤選手に敗れていた大根谷。「難しいのは覚悟していた。とにかく自分のベストを尽くそうと思ったけど、最後まで攻略できなかった」。一方「そこまでの自信はなかったけど、遅くなったレーンは得意。落ち着いて同じところに投げられればという気持ちはありました」と近藤選手。202:175で大根谷を退けた近藤選手が、男女を通じて初のアマチュアチャンピオンに輝いた。

●男子優勝決定戦

安里 秀策									
7	2	3	4	5	6	7	8	9	10
9	39	69	96	113	120	140	160	179	188
原口 優馬									
2	3	4	5	6	7	8	9	10	
29	49	69	89	107	116	136	156	176	196

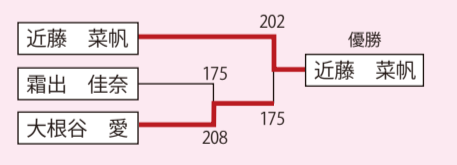
●男子決勝ステップラダー



●女子優勝決定戦

大根谷 愛									
2	3	4	5	6	7	8	9	10	
20	37	45	65	85	103	121	140	156	175
近藤 菜帆									
2	3	4	5	6	7	8	9	10	
29	49	69	97	115	123	143	163	182	202

●女子決勝ステップラダー



今月の表紙

●男子優勝・原口優馬

準決勝の最終ゲーム、10フレに2発持ってきて、なんとか決勝ラウンドロビンに滑り込むことができた。あれがなければ優勝もなかった。決勝のレーンは、男女の3位決定戦をはさんでの練習ボールのときには、手前が削れてすごく遅くなっていたので、思い切ってインサイドに入った。右レーンはボールリターンがあってそれ以上寄れなかった。前に立って3歩助



(©JPBA)

走で投げた。前半リードされたけど、相手のことより、自分で悔いのないボウリングをしようと思った。

プロで早めに1勝したいと

思っていたし、今年デビューの井口(遼太)くん、女子でも今井(双葉)さんが新人戦で優勝するなど、今年デビュー組が活躍していたので、自分もという気持ちが強かった。だからこの優勝はすごくうれしいけど、すぐに試合が続くので、優勝の余韻に浸っているよりも、次の試合に集中したい。

優勝ボール: STORM(ハイ・スポーツ社)ダークコード

●女子優勝・近藤菜帆

予選、準決勝は男子と一緒に

投球だったけど、女子だけで投げるとは違った変化の仕方。私の球質的にはそれがよかったと思う。優勝決定戦は、前半いいスタートが切れたけど、いつかは⑩ピンが残るだろう、いつかは割れるだろうと思いつつ投げたので、6フレに割れたときも焦りはなかった。

優勝はうれしくてたまらないけど、考えられないことが起こったという感じ。今フォームの改造中だったので、こんなにうまくいっていることがびっく

りです。師匠の坂田(重徳)プロからは、たくさんの改善点を指摘されていて、とくに今は、上体が突っ込む癖があるので、上体を起こしてボールを前に運ぶようにということをやられています。毎回うまくできているわけではないけど、これまでの取り組みが無駄じゃなかったなというのを改めて思ったし、この優勝で少しは恩返しできたかなと思います。

優勝ボール: ROTO GRIP(ハイ・スポーツ社)アテンション・ブラックパール